



上富産発第 62 号
平成 19 年 4 月 26 日

国土交通省道路局長

上富田町長 小出 隆道



今後の道路政策や道路の整備・管理についての意見

貴職におかれましては、日頃から道路事業に対するご理解、ご協力を賜わり、厚くお礼申し上げます。

道路は、活力ある地域づくり、まちづくりに欠かす事のできないものであり、住民生活や地域経済を支える最も重要な社会基盤である。しかし移動手段を自動車に大きく依存している和歌山県の道路整備は、全国に比べ著しく立ち遅れており改良率は全国ワースト 2 位で、やっと 25 年前の全国平均といった状況であります。

紀伊半島は、「紀伊山地の霊場と参詣道」が平成 16 年 7 月に世界遺産に登録されるなど、高野・熊野を中心とする文化遺産と風光明媚な海岸線を始めとする優れた自然環境を有していますが、半島性の故に道路網の整備が遅れ、産業・経済の低迷、高齢化・過疎化が大きな課題となっている地域です。近畿自動車道紀勢線は、紀伊半島地域にとって、大都市圏との交流を活発にし、農林水産業や観光など産業の振興を図る上で重要な「自立の道」であり、また、救急患者の搬送や災害時の緊急輸送を担う「命の道」でもあります。

特に、近い将来、非常に高い確率で発生が心配されている東南海・南海地震等の大規模災害に備え、「命の道」や、市町村合併による地域一体の発展や世界遺産を活用した観光振興による地域の自立と活性化を支援する「自立の道」など、地域課題解決の為に早急に進めなければならない道路整備が数多く残っています。

効率化を進める上では、中期計画のアンケートにも有るように、事業のスピードアップを図るなどスケジュール管理の徹底、工法の工夫や新技術の活用、現道有効利用の為に高速料金の引き下げ、ETC利用の徹底、路上工事の縮減などが必要でないかと考えます。

又、マスコミ関係は東京周辺の整備率の進んだ都会しか見ていないのではないかと、それを見て全体が進んでいる様な考え方をしているのではないかと考えられます。

地方の道路整備の重要性を十分認識し、引き続き道路整備の推進が強力に図れるよう、財政的に弱い和歌山県等改良率が全国平均になるまで、道路特定財源を一般財源化の他に転用する事なく、全額道路整備のための財源として確保することを要望します。